

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年10月16日 (2014.10.16)

【公表番号】特表2012-521966(P2012-521966A)

【公表日】平成24年9月20日 (2012.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-038

【出願番号】特願2011-553339(P2011-553339)

【国際特許分類】

C 0 7 D 215/38 (2006.01)

A 6 1 K 31/47 (2006.01)

C 0 7 D 417/12 (2006.01)

A 6 1 K 31/4709 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 25/08 (2006.01)

A 6 1 P 25/22 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/06 (2006.01)

A 6 1 P 25/02 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D 215/38 C S P

A 6 1 K 31/47

C 0 7 D 417/12

A 6 1 K 31/4709

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 25/08

A 6 1 P 25/22

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/06

A 6 1 P 25/02

A 6 1 P 13/12

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年9月1日 (2014.9.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 0 6 】

さらに、K C N Q 2 / 3 K + チャンネルは、多数の他の疾患、例えば偏頭痛（米国特許第 2 0 0 2 / 0 1 2 8 2 7 7 号明細書）、認識疾患（G r i b k o f f 著，E x p e r t O p i n T h e r T a r g e t s 2 0 0 3；7（6）：7 3 7 - 7 4 8）、不安状態（K o r s g a a r d e t a l . 著，J P h a r m a c o l E x p T h e r . 2 0 0 5，1 4（1）：2 8 2 - 9 2）、てんかん（W i c k e n d e n e t a l . 著，E x p e r t O p i n T h e r P a t 2 0 0 4，1 4（4）：4 5 7 - 4 6 9；G r i b k o f f 著，E x p e r t O p i n T h e r T a r g e t s 2 0 0 8，1 2（5）：5 6 5 - 8 1；M i c e l i e t a l . 著，C u r r O p i n P h a r m a c o l 2 0 0 8，8（1）：

65 - 74)、尿失禁 (Streng et al. 著, J Urol 2004; 172: 2054 - 2058)、依存症 (Hansen et al. 著, Eur J Pharmacol 2007, 570 (1 - 3): 77 - 88)、躁病 / 双極性障害 (Dencker et al. 著, Epilepsy Behav 2008, 12 (1): 49 - 53)、筋失調に関連する運動障害 (Richter et al. 著, Br J Pharmacol 2006, 149 (6): 747 - 53) の治療のための適当な対象である。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0068

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0068】

有利に、本発明による医薬は、痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛からなる群から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識疾患、筋失調に関連する運動異常症及び / 又は尿失禁からなる群から選択される 1 種又は数種の疾患の治療のために適している。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0072

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0072】

痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び / 又は尿失禁を治療するための医薬を製造するための、少なくとも 1 種の本発明による置換された 3 - アミノ - 2 - メルカプトキノリン並びに場合により 1 種若しくは数種の製剤学的に許容された助剤の使用が有利である。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0076

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0076】

本発明の他の主題は、痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び / 又は尿失禁を治療するための、少なくとも 1 種の本発明による置換された 3 - アミノ - 2 - メルカプトキノリン並びに場合により 1 種若しくは数種の製剤学的に許容された助剤である。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 13

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 13】

痛み、てんかん、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び / 又は尿失禁の治療のための医薬を製造するための、個々の立体異性体又はその混合物、遊離化合物及び / 又はその生理学的に許容し得る塩の形態での請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の少なくとも 1 種の 3 - アミノ - 2 - メルカプトキノリンの使用。